

---

◎一般質問

○議長（藤井 要君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。

---

◇ 深 澤 守 君

○議長（藤井 要君） 通告順位6番、深澤守君。

（5番 深澤 守君 登壇）

○5番（深澤 守君） 一般質問の前に、今回のコロナ対策で、休業補償及び10万円の給付の手續に関しまして、職員の皆様、お忙しい中、大変御苦勞をおかけしまして、手續を速やかにしていただき、町民の皆様に、支給を速やかにしていただいたことに対して、心より感謝いたします。どうもありがとうございました。

それでは、壇上より一般質問をさせていただきます。

大きい1、松崎町の経済再生計画について、1、観光振興策について、自粛が解除され、お客様が動き出す前の準備として、当局はどのような施策を実行しておりますか。また、これから何を行っていきたいかお答えください。

経済が回り始めたときに、どのような観光振興策を行うか、お答えください。

町内の経済を活性化させるための施策には、どのようなことをお考えでいるかお答えください。

経済を活性化するため、財調を取り崩して、大規模な財政出動を行うお考えはございますか。

以上、壇上より質問させていただきます。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 定額給付金について深澤議員から、町職員の仕事ぶりについて、お褒めの言葉をいただきました。感謝申し上げます。そして、昨日鈴木議員から、町長の政治姿勢について問われまして、私はこの町の生んだ、石田礼助さん、この人は元国鉄総裁で三井物産の代表取締役を勤めた方です。読書家の深澤議員はよく御存じだと思いますけれども、城山三郎さんの書いた、粗にして野だが卑ではないという、粗野だけれども、卑しくないというこのスタンスが、ですね、私は非常に好きであります。我々は、給料の源泉は税金であります。町民のため、公のために一生懸命、働くということは、絶対的な必

要条件だと思います。町長にとっても町会議員にとっても、私自身、絶対、卑ではないと、いうふうに思っております。

深澤議員の質問にお答えします。

松崎町の経済再生計画について、観光振興策について、自粛が解除され、お客様が動き出す前の準備として、当局はどのような施策を実行しているのか、これから、何をしたいのか、2つ目、経済が回り始めたときに、どのような観光振興策を行うのか、3つ目、町内の経済を活性化させるための施策をどのように考えているのかという3つの質問でございますが、一括してお答えしたいと思います。

新型コロナウイルス感染症による経済的な打撃は、2008年のリーマンショックを超えるものであり、観光関係事業者への影響を心配しているところであります。今月に入り徐々にではありますが、外出自粛も解除されつつあり、お客様が動き出す前の準備として、観光誘客施策を検討しております。例えば、観光庁の「Go Toキャンペーン」や、美しい伊豆創造センターの「県民宿泊割引クーポン」などがあり、松崎町としてもどう活用できるのか観光協会と打ち合わせをしており、先ずは県内、そして近隣県へと効果的な誘客を進めてまいります。

「ウィズコロナ」「ニューノーマル」といった言葉とともに、新しい観光として【安心・安全】な旅の提供を実施できるよう支援してまいります。なお、町内の経済活性化には町民の皆さまのご協力が必要となります。昨日、申し上げましたが、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用したプレミアム商品券等を準備いたしておりますので、ぜひ町内での消費拡大を図っていただきたいと思います。

同じく、経済再生の4つ目でございます。経済を活性化する為に、財調を取り崩して大規模な財政出動を行う考えはあるかという御質問でございます。

お答えします。町では、新型コロナウイルス感染症対策として、これまでに利子負担を全額補助する事業所の資金繰り支援の他、2回にわたる事業所支援給付金の支給や、休業要請を行った観光事業者等に協力金を迅速に給付するなど、財政調整基金を取り崩して実施してまいりました。5月25日に新型コロナウイルスの緊急事態宣言が全国において解除となり、今後は感染防止と社会経済活動の両立が求められます。その上で、地域経済再生のため、国・県の制度を最大限に活用しつつ、適切な対策を迅速に講じていくことは、必要不可欠のことであり、そのために財政調整基金を充てることは、当局として当然のことだというふうに考えております。

以上でございます。

○5番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○5番（深澤 守君） 先ほど町長のお話の中で、石田礼助さんの言葉があったと思います。今の回答だと、自分は、間違いではないっていうような感じですけど・・・、もともと礼助さんの言ったのは、卑ではないっていうのは卑しくないっていう意味で、自分は高貴な出ではなく、決して官僚にはなっていないけれど、卑しくないよって言う意味だと・・・。ちょっと、意味が違うんじゃないかと思います。それから、石田礼助さんの言葉を借りれば、石田礼助さんは海外に長くおられたので、キリスト教教育を受けております。公僕として、自分は何をしなきゃならないか常に考えている人だと思っております、解釈しております。是非、石田礼助さんの本を読んでいるのであれば、やはり、しっかりとそういう部分を・・・、我々もそうなんですけども、感じていただきたいと思います。

それから、もう1つ言葉を借りれば、松崎の、若い人の・・・、若い衆の団体は三省社と言います。これはことわざで「我卑ず三省す。」という言葉からとったっていうふうに、聞いております。我々はやはり自分の行動、しっかり見つめながら、反省しながら、次の行動に移すっていうことを、我々、松崎の若い人間は教わっております。ぜひ、自分たちも含めて、それを実践していくべきではないかと思っております。

経済について最初に質問っていうことなんですが、それについてですね、先に関連質問したいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（藤井 要君） どのような事ですか。

○5番（深澤 守君） これからですね、経済振興をやるに当たってですね、少し、町長の姿勢というものが・・・。

○議長（藤井 要君） はい、許可します。

○5番（深澤 守君） 関連質問させていただきます。最初に、町長、このコロナについてですね、やはり、人災ではなくて、天災だという認識というものをお持ちでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 天災だと思いますけれども、人災でもあるなというふうに思っております。

○5番（深澤 守君） 昨日ですね、町長、虚心坦懐というお言葉をお使いになりました。前の選挙のときにも、ある議員の当選祝いときに、このようなことを申しておりました。確認の意味でも、虚心坦懐の意味を教えてくださいませんか。

○町長（長嶋精一君） 虚心坦懐というのはまさしく虚心坦懐で心澄み切った状況で、素直に、物事を考えやるということ。人に対しても、そういう虚心坦懐に接するという事ではないかと私は考えております。

○5番（深澤 守君） 調べてまいりました。ここにあります。心に何のわだかまりもなく、気持ちがさっぱりしていること。心にわだかまりがなく、平静に事に臨むこと、また、そうした様。虚心は心に先入観やわだかまりがなく、ありのままを素直に受け入れることのできる心の状態。坦懐はわだかまりがなく、さっぱりとした心、並進な心境とあります。

引き続きまして、昨日、渡辺議員の一般質問のときに、田中議員に対する発言、それから、今度のコロナの休業補償に対して、町長が発言したこと・・・これ、一時の感情に任せて、発言し行動することは、町長の資質を問われる問題であると思いますが、町長お答えください。

（○町長（長嶋精一君）「ちょっと意味がわかんないな・・・。」）

○議長（藤井 要君） もう一度、短く。

○5番（深澤 守君） 昨日、渡辺議員が質問したときに、田中議員に対しての発言ですね。それから、ある町民の方にお伺いしたんですが、休業補償を求めた時にですね、暴言を吐いていると・・・これは本当に一時の感情とか、そういうのに任せて発言し行動するという事はこれ、先ほどの虚心坦懐の話ではないですけど、やはり町長としてとるべき行動ではないというふうに判断いたしますが、町長、お答えください。

○町長（長嶋精一君） 田中議員に対する発言というのは、このことですね。あくびのこと・・・。

（○5番（深澤 守君） 「はい。」）

○町長（長嶋精一君） あくびのことはですね。あくびのことは別に虚心坦懐とは関係なく、こういう・・・、この、議会というのは年数回でね、本当に、神聖なる場なんです。それで、お互いが打打発止で言うのが、真剣勝負なんですね。我々のほうは、議会議員の皆さんから質問がどんなふうなものが出るかと思って、一生懸命考えて考え尽くして、この席に座っている訳です。したがってね、あくびが出るような状況じゃないんですね。それはこういう議会の中で、それをするという事は、非常に不謹慎だと私は思っています。こちらからは全てわかるんですね。聴講席のほうからはわからないと思います。だから、やっぱりこれは、真剣勝負であり、あくびがでるといようなことが、議員としてふさわ

しくないと思っております。

○5番（深澤 守君） そういうことは基本的には言うべきでもないし、やはり、鈴木議員に対しての発言でもやはり不適切であると思いますのでね・・・やっぱり、そういうところから少しずつ亀裂というものが出てくると思うんで、議会と当局がしっかり両輪となってコロナ対策をやっていくときに、不適切な発言だと思しますので、是非それはやめていただきたいと思います。

先日ですね、鈴木議員のほうから、役場の職員環境の問題について、町長のほうから回答がありまして、問題ないということの発言だったんですけど・・・、やはり、昨日の発言等見ると・・・、やはり、回答的には納得できないものがあると思います。町長、もう一度ですね、虚心坦懐の心で、町政に当たるべきではないかと思えます。その辺についていかがでしょうか。

（○町長（長嶋精一君） 「これ関連質問ですか。」）

○議長（藤井 要君） この答えを言ってから、また、言いますので・・・。

（○町長（長嶋精一君） 「関連質問ですか。」）

○議長（藤井 要君） 関連質問の中で、やっているもので・・・。

○町長（長嶋精一君） 日ごろからね、職員の行動が、あるいは適正というものは、把握しているつもりでございますけれども、より一層ですね、そういう適性関係について仕事の量、質について吟味してね、やっていきたいと・・・。よくウォッチしてやってまいりたいというふうに思っています。

○議長（藤井 要君） 深澤議員に申し上げます。質問の中で、いろいろこういうことをですね、関連するようなことを入れながら、大きく外れないように、質問をしてもらいたいなど、思います。

○5番（深澤 守君） それではですね、まず①のことについてお伺いたします。今、テレビ等で、ですね、コロナ、今、収束に向かいつつあって動きつつあるんですが、テレビ等で、ですね、何段階かに分けて、対処しているってことを報道されております。第一段目としては、まずみんなが動き出す前に、自分たちの強みだとか弱みその他を検証して、ことに当たると、それから最近のデータでも出ていますが、2時間あまりの車の運転で行けるところを目指すという、旅行したいというデータもでております。それから、その後の展開ってことを考えておりますが、まず最初に、松崎町が今、自分たちの強みとか弱みとかってものを、検証しているってことはございますか。

○町長（長嶋精一君） 詳細については、担当のほうから話しますけれども、まず今は相当大変なときで、宿泊、それから、飲食業が代表的な大変な業種だと思います。そこに対して、廃業は無いように、出血を止めるような形でやってまいりたいと・・・。それには、国や県の施策も大変ありがたく、思っているんですけども、どうしても、すぐには給付されないということが考えられます。したがって、我々は国県の施策が実行される間に、ですね、手を打たなきゃいけないと、いうことで、昨日申し上げた、クーポン券ですか、それを今日の朝刊にも、書いてありますけれども、それをまず実行して、町民が、全員が、飲食業だとか、宿泊業、あるいはどんな買い物でもいいんですけれども、それに協力しようと、全員が協力しようというところで、考えた訳です。地域内で協力し合って、やっていこうよということでもあります。詳細はまた、企画の課長から申し上げます。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今、深澤議員のほうから質問いただきました件につきまして、松崎町では外出自粛の期間を、使わせていただいて、もう一度資源の掘り出し・・・、または、こちらで、外に対して、売り出せるものというものを、一応、観光協会等々と協議をしながら、話をしております。やはり、GoToキャンペーンもそうですし、県内の宿泊・・・、県民による県内の宿泊、クーポンも含めなんですけど、一律に用意、スタートと、スタートラインに立って、スタートダッシュする形になります。そのために、やはりこの松崎町としての売りをしっかりとセールスポイントを、磨き上げて、ですね、そこをしっかりと売っていかなければいけないということが一つ。それとあと、やはり、人が来てもらうために、その行動に結びつくような、施策を考えなければいけないということで、観光協会とともに、もう一度、宝の探り出しというのをやっております。もう一つはやはりお客様を呼ぶのに、全国一律で競争という形になったときに、やはりかかわり合いがある、今、総務省のほうでも言ってる関係人口という言葉がございますけれども、そこから誘客につなげていきたいというところも含め、今関係の・・・、先日もちょっとお話をさせていただいたとおり、山梨県の昭和町であったり、美しい村の関連でいうと早川町あたりが、山梨県にあります。県知事も、山梨と静岡県内の行き来を活発にまずさせると、いうようなこともおっしゃっていますので、県内もしくは近隣の県から、まず先に観光誘客の施策を進めて、行きたいと考えてございます。

○5番（深澤 守君） 今年、今月号の広報まつぎきに町長このように語っております。観光だけではいけない、何としても外の経済変動に左右されにくい体質の町にしなければならないということを書いてあります。今の回答ですと、町長、当分の間、観光のことはや

らなくてもいいみたいな発言ともとれるような発言何ですね。町長これ、今、もしこれ、コロナが解除して皆が動き出したときに・・・、観光振興・・・、観光でやっていける外貨を稼ぐことを考えないとこれ松崎町の業者ってなくなっちゃうんですよ。現に、もう、松崎町、何もやってくれないから店閉めて、出て行こうっていう話まで若手している訳ですね。ここでしっかり松崎町に来てもらって金を落とす方策を作って、その方策の中で、Gotoキャンペーンでも、県がやっている5,000円というものをしっかり取り込んで、町の活性化していかないとまずいと思うんですけど、いかがでしょうか、町長。

- 町長（長嶋精一君） まずね、困ってる方々に対しての、我々としての対応はしっかりしていると思います。私が広報に書いたのは、あくまでも、最終的には、観光ということをやっていくと。観光をやっていくんだけど、従来のようなやり方では、またこんなことがあると、大変な状況になるのではないかと。観光をやるんです。でも観光やるんだけど、世間一般の景気動向に左右されないような、町を大切にしなければいけないんじゃないかということ町長として考えている訳です。まだ試行錯誤の段階だけでもその中には、ものづくりというものが入ってないと、どうしても流されてしまうと、ものづくりといっても、自動車産業になったり、テレビを作ったりという意味では全くありません。ここにあるもの、農業、水産業、林業、こういったものをですね、もう一度掘り起こして、具体的にここの産業に育てると。パイヤだとかね、それから、栄久ポンカンだとか、有機栽培は鈴木議員がやっているみたい、ですけども、そういった有機栽培についてもやっっていこうじゃないかと。そういう基本的なことをですね、少しずつ少しずつやっていく。これが迂回、遠回りのようだけれども、結局観光に、大きく寄与するのではないかと、いうふうに私は考えて書いた訳であります。何もその観光を捨ててね、やっっていこうなんて、全く思っておりません。次の広報にも、それをちょっと深く書いて行こうかなと思っておりますけども、桜葉とかね、そういったものについても、より深くやっっていきたいと、いうふうに思っております。物づくり、農業、林業、水産業ですね。水産業だって、例えば、魚ですけども・・・、カサゴとか、ハタとか、この伊豆の西海岸で非常に、とれるんだけど・・・、おいしい訳ですよ。これらを、進めていきたいなど。それ以外にもたくさんある訳ですけども、漁業組合とも協調しながらね、やっっていきたい。そういった農産物、水産物が、旅館とか民宿が、それを加工して、和洋中の料理に仕立て上げていく、その前に、やっぱり、郷土料理というものを、基本として、置いておくということで、関連しながら、やっぱり観光に結びつけていきたいというのが願いです。観光を捨て

てしまうなんて、全く考えてはおりません。

以上です。

○議長（藤井 要君） 深澤議員、もうちょっと大きな声で・・・。

○5番（深澤 守君） 先ほどですね町長が、国の政策とか、そのようなものを活用して、寄附金その他をやっているということをお話ししておりましたが、町長、やはり、コロナの対策とかの、支給の、判断が遅れたという、やはり、今までの県や国に対応する対応が原因で、事前の情報が収集できないっていう側面もあると思うんですが、これから県や国などの政策について、事前に収集して対応していく必要があると思うんですが、その体制をどのように整えていくか。お考えがありましたら伺いたします。

○総務課長（高橋良延君） 国県の、これから情報というのはかなり入ってきます。地方創生の交付金も、6,800万円、松崎町に配分された云々含め、これから入ってきますので、そこは、対策本部もあります。その下に企画観光課は、企画観光班という形でありますので情報が入ってきたら、そういったところは全て共有して、対策に生かしていくということで体制をとっております。

以上です。

○町長（長嶋精一君） 我々の対応が遅いというふうに感じておられるのは、ちょっと、心外だなと思います。西伊豆町さんが相当早くね、行動をおこして、それと比較すると、遅いんじゃないかというふうにおっしゃるとは思いますけれども、ほかの市町に比較してね、決して遅いということはありません。それで実際のそれを、お金の給付についてはですね、ものすごく早かったと思います。これについては、議員の方にも給付を受けた方もいらっしゃると思いますけれども、非常に早かったと思います。それは私も感じておりますし、その、早くしようよ、ということを重点的にね、商工会等に、企画のほうからお願いした訳ですから。それについては、しっかりやってもらっているというふうに感じております。それから国県との情報についてはね、特にそんなやり方でやろうっていうふうなことはありませんけれども、国県あるいは県会議員さん、そういう先生方ともですね、しっかりと情報はとれるようになっております。従って、松崎町だけが非常に遅れるということはないと思います。

以上です。

○5番（深澤 守君） 私がなぜこのことを言うかっていうと、これから多分いろいろな政策、補助金にしても、たくさん出てくると、県のほうも出てくると、その中で発表されて

から物事を対処しては、これ、多分、全国各地の地方公共団体はとりにきます。必死になつてとりに行きます。その流れに乗り遅れないためにもやはり、事前にしっかりと情報を取って、そこに対応して、我々が政策を立てて、必死で貫いなければ、多分、松崎はもたないと思います。そのことを、危惧している訳で、このような発言をしましたので、是非、本当に、情報をしっかりとって、それに合わせた政策、一生懸命やっていただきたいと思います。

もう1点なんですが、今、あまり、松崎町、マスコミに対しての関係性はよくないと思います。今、このコロナの関係の後ですね、情報戦略として、マスコミを使って、いろいろと情報を流しております。昨日もたしかiZooさんの方のものもありました。やはり、今、しっかりとマスコミさんと協力関係を結んで、ですね、松崎町をしっかりとアピールしていただきたいと思うんですが、その辺の広告宣伝の戦略についてお伺いしたいと思います。

○企画観光課長（深澤準弥君） 広告宣伝につきましては、こちらから、いろんなイベント等確認した上で、マスコミさんのほうには、定例記者会見等で報告をする形がとられております。今後、昨日もそのiZooの関係とか、いろいろ発信をさせてもらっているところもありますので、今、一応、縮小というか、全てのイベントが今、中止とか、延期になっている中ではございますが、その時期を凝縮ととらえて濃いものにしていきたいと考えております。そういったものを、マスコミのほうにはしっかりと提供させていただいて、取り上げていただくような中で、情報発信のほうは進めていきたいと考えておりますので、またよろしく申し上げます。

○町長（長嶋精一君） 深澤議員がおっしゃるようになりますね、マスコミとの関係を有効的にやっていかなきゃいけないと思います。パブリシティが1番大事であります。プロパガンダというよりもパブリシティ、本当に大事だと思います。これについては、積極的にね、友好を図ってそれから今月の末前には、静岡県の旅行者に対して、訪問、これは・・・たくさんはできませんけれどもね、ネットの関係と、それから、実際に訪問して、汗かき仕事をやるということも極めて大事だと思いますから、これについては今月実行して、何とかこの7月の誘客につなげていきたいと思います。それで、国県の・・・発表がある前に、できるだけ情報を収集して・・・ただ、うちのほうでできること、これを商品化を、我が方にあつたものを作っていきたい。さっきも言いましたがその前に、我々としては、プレミアム商品券を販売して、町で一緒、みんなでやろうよと、まずそこがな

いと、他から助けしてくれないと私は考えていますよね。ほかからも助けをいただきますよ。国県の助けもいただく・・・その前に、きっちりと、町内でもって交流し合って、買い物に行っていていただく、料理を食べていただく、泊まっていただくということ。町内でもって、循環をしていくと・・・そうすると、ここは非常に特殊な形でしのでいるなということがまた、マスコミさんからも注目を浴びて、それが、さらに相乗効果を生んで観光客の方々が来てくれるんじゃないかと私は踏んでおります。

以上です。

○5番（深澤 守君） 今、SNS、ツイッター等、インスタグラム等を見ますと、例えば円山動物園は、熊に餌をやるとか・・・、そういうもので、来てくださいとは言わないけど、印象づけというものをやっております。松崎も例えばこの前見ましたけど、防災用のカメラで富士山を映しているとか、あと、先ほど町長が言ったような料理を作っているものを作っているよっていう動画を上げたりとかっていう、新しいPRの仕方っていうのも、できると思うんですが、そのような取り組みをしているのか、またどのような展開をしていきたいのか、お答え願えますか。

○町長（長嶋精一君） 深澤守議員が、非常に時期が良い質問でございますが・・・、17日だったかな、まつぎ荘の料理長あるいはまつぎ荘の料理人と一緒に、ですね、企画観光とか、総務課長とか、私含めて、こういう料理をやろうじゃないかっていうことを、早速やります。そして、それらをSNSとか、そういうところで発信をしたり、それも夏だけじゃなくて、いろいろこう、季節に応じたものを試食してね、やってまいりたいなというふうに思っています。

以上です。

○企画観光課長（深澤準弥君） SNSについてですけれども、一応、松崎町のホームページ等でフェイスブック等で今やっております。観光協会の方も一応、発信の方はしておりますけれども、今後インスタグラム等のほかの、媒体も、検討を今してる状況です。やはり先ほども、議員のほうからも御指摘あったように、中身がしっかり、発信できなければ、なかなか見てもらえる、フォロワーに繋がらないということもございますので、そういった中身を精査しながら、より発信力の高いものを作っていきたいと考えております。

○5番（深澤 守君） もう1点、広報戦略についてお伺いしたいんですけど、松崎町に住んでいる方でいろいろな人材がいらっしゃると思うんですけど、今まで、広報等、その他は役場の企画観光課が担当してやってらっしゃったと思うんですけど、少し視点を変える

意味でもですね、外部の人を入れて、広報戦略を練り直すっていうことも、必要ではないかと思うんですが・・・その点についていかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今御意見いただいたとおりですね、いらっしゃるお客様は外部から、来ますので、そういった外部からのいろんな視点を持った方を、いろいろかわりを持って、御指導いただけるようなことを一応考えております。その中で一つとしては、今、盛んに大学生との交流というのを今やっております、その大学生・・・、学生もそうなんです、一緒について来る先生方ですね、いわゆる大学の英知を活用させていただいて、そういったところで、何か発信はできないかというようなことも検討をしている次第です。実際に、そういった、松崎町でも、昨年度、津波防災地域まちづくり計画を立てた際にもそういったつながりから、会長の原田先生なんかは、そういう縁からお願いしたりしているものですから、外からの、そういった、視点と英知をお借りして進めていく所存でありますので、またよろしく申し上げます。

○5番（深澤 守君） 先日の行政報告の中で、ふるさと納税の宿泊の部分が47人ぐらいしかないですね。そうすると、1ヶ月に大体・・・、上下はあるでしょうけど、4組ぐらいしかない。というのが現状だと思います。やはり、ふるさと納税っていうのはある程度、こういう言い方おかしいですけど、無料でもらえる部分でもあると思うので、やはりそこんところはしっかりと、GoToキャンペーン含めて、一体として、取り組んで松崎はこういうところに来てくださいよっていう感じのものを、とればもっと増えると思うんですけれど、その増やす施策みたいな・・・、考えがありましたらお答え願います。

○企画観光課長（深澤準弥君） 当町のふるさと納税の額は西伊豆町と比べて大分少ないものですから、いろいろ事前に、今までもいろんな形で御意見いただいております。実際のところ違いがはっきりしているのは製造業ですね。海産物の干物、売り上げが3分の1を占める西伊豆町です。うちの方はそれが無いものですから、どちらかというと小規模農業者とかそういった方々が尽力されていて、そこからの製品というものが、ふるさと納税の商品として並んでいます。今、御指摘のように宿泊券とか、あと体験ものをもうちよっと充実させていけたら、額も上がってくるかなというようなところもございますので、そういった形のいわゆる、横の連携をしながら、こういった形でふるさと納税につなげていけるかをちょっと、もう一度、ブラッシュアップしていく必要があると、思っておりますので、またいろんなお知恵を拝借できればと考えております。

○5番（深澤 守君） 町の予算として700万ずつ毎年グリーンツーリズムに出している訳

ですから、やはり、今回のことで、しっかりとそこんところをですね、見直していただいて、松崎町に来ていただく、内容、しっかりしたものを作っていただければ、きっと松崎町ってPRすると来ていただけると思えるんです。それは自信持って言えるので、しっかりと、取り組んでいただきたいと思います。それと、最近、話題になっているワーケーション、せっかく宿泊施設がね、なかなか稼働しない部分が出てきているんで、まつぎき荘ですとか、民宿等、活用っていうのも、やっぱ、現状だと、有効的じゃないかと思うんですけど、その辺の取り組みについてお答え下さい。

○企画観光課長（深澤準弥君） 深澤議員のおっしゃるとおりで、今回のコロナの影響がありまして、いわゆる働き方が大分変わってきております。先日もその話がありまして、東京で仕事をする必要がなくなるんじゃないかというような意見もありましたが、なかなかすぐに転換できるかという、それもちょっと難しいみたいです。実際には下田市がワーケーションの取り組みを、始めておりまして、南伊豆町では何年か前からシェアオフィスの関係で、あれですね、サテライトオフィスとシェアオフィスの関係を進めております。そういった関係もある中で、エリアとして下田、南伊豆、松崎という、ちょっと広域の関係ですけれども、そういったものでワーケーションにつなげられないかっていうふうなことは、実はもう、話をしております。今、いただいた意見の中にも、まつぎき荘なんかを、長期滞在につながるものですから、そういった環境整備をして、誘客につなげるっていうのも一つのやり方かなとは考えております。まつぎき荘については、そういったもので、誘客を、つなげていかなければならない事情もございますので、そこも一つの方法として考えております。

○5番（深澤 守君） 事業やるにしてもお金がかかる。関連で財源の話をちょっとお聞きしたいんですけど・・・。今、重文まつりとか三聖まつり、太鼓フェスティバル中止になっております。その部分の財源がういております。また、副町長置かないのであれば副町長の人件費というものも、削減できるんじゃないかと思っておりますけど・・・。その削減の条例・・・、議案・・・補正案について大体いつ頃、出してくる予定でいらっしゃいますか。

○総務課長（高橋良延君） 予算の事でありまして、私の方から回答いたします。今、深澤議員おっしゃったように、イベントの中止、そういったものがですね、かなり多いです。これにつきましては、9月の補正のところである程度の確定しているところについては、整理をちょっとしていきたいなど、というようなことで考えておりますので、それを、いわゆる、9月の財源のほうに回せるというような形で現在のところは考えているところ

でございます。

以上です。

○5番（深澤 守君） これ質問じゃないんですけど、要望として、あれなんですけど、他の議員さんのちょっと意見が分かれると思うんですけど、我々は、10%カット、175万円、という予算を微力ではありますが町のために使っていただくために、削減しました。是非ですね、プレミアム商品券の中に入れて・・・これは町長の予算執行、編成権の問題もありますけれどもね、議会のほうがあれやこれやいう問題でもないと思うんですけど、僕の意見としては、プレミアム商品券だとか、そういうところの消費・・・、松崎町の消費を喚起する部分で、使っていただきたいと思います。これお答えはいらないです。・・・5分間、延長お願いします。

○議長（藤井 要君） 5分間延長を認めます。

○5番（深澤 守君） たとえば、お客さんに来てもらうっていうですね・・・今まで蓄積した、町が、例えば国民宿舎だとか、旅館、民宿さんが蓄積した顧客名簿の中で、ダイレクトメールをして、皆さんお元気ですか、みたいな形のを・・・、PRするっていう、一つの・・・、何か、こう・・・、今、手紙をもらうと凄く嬉しいこともあるので・・・、それに例えば今500円でもいくらでもつけるか、可能かどうかわかりませんが、そのような、文書作成みたいなものっていうのを今お考えでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 民間の民宿、旅館、ホテルはちょっとわからないんですけど、まつぎき荘においては、今回の自粛、休業の期間にですね、顧客に対しての、そういったアプローチをかけるということで指示をして動き出しているとは思いますが。

○5番（深澤 守君） また、財源の問題で、お伺いしたいんですけど、私どもはこのコロナ対策について、診療所を延期してほしいと、その部分の財源を充ててほしいということを申しております。しかし最近、町長はですね、診療所を建てることは、これ、公共事業費だもので、町のためにお金を回すということもあり得るよっていう、発言をしていますけど、これ、診療所を建てた時に費用対効果って大体どれくらいを見込んでおりますか。町長はよく、費用対効果とおっしゃいますけども、大体、試算でも感覚でもいいから、どのくらいの費用対効果を望んでおりますか。

○町長（長嶋精一君） 数字で表わすということは、今後のことでもございますので、全く難しいと思います。しかしながら、町民のコロナ後の安心安全を守ることが、これは町長としても町会議員としても、全く同じ観点でなければいけないなと思っています。

例えば、1つの町内のお医者さんが辞めるということになりますと、非常に町民に対して、不安を煽る訳ですから、私は、この診療所については、やはりコロナと・・・コロナが、あったからこそ、やはりやっていきたいなと思っております。そして、建設することによって、やっぱり業者もそれなりに潤っていくということもあります。その金額はちょっとわかりませんがね。

○5番（深澤 守君） 今、公共事業の問題っての凄く問題になっておまして、清水庁舎について、議長あの、町長は入札が不良になっているからということをおっしゃるけれど・・・、今、清水庁舎は何が問題になっているか、あそこ杭の問題があるんですよね。それで、いくらかかるかわからないから不調になったという側面もありますよね。下田については、たしか5億円ぐらい・・・、予算が足りないんですよね。で、松崎も、元々の予算と入札の差額がアレして不調になっておますね。昔はですねこういう不景気になると、国のほうとしては、経済対策、財政投融资とかそういう部分で公共事業をどんどん増やして行きましたね。今回、政府この話をしてない訳ですね。そうすると、箱物を作って公共事業をやれば、昔みたいにお金がたくさん回って景気がよくなる、っていう議論はない訳ですね。それよりも、私は、しっかりと今、町民の皆さん凄く不安がっているんです。明日どうしようかとか、特に5月6日までは皆さんすごく困っていらっしやいまして・・・、明日どうしようか。支払いできない。それから、将来に対する不安っていうのが、今、もの凄くあります。そこのところを、行政がしっかりとフォローしてあげて、皆さん松崎町は安心して、やっていけますよっていう、未来に対する安心感とか、担保してあげるのが今必要ではないかと思えます。そのためにも、僕は今、確かに、コロナその他のものもあるし、医療は先行き不安な部分もあります。でも、今やらなければならないのはしっかりと経済対策。それから、若者が根づいてもらう商売その他で、そういう施策のほうが大切じゃないかと思えます。ですから、私は、本当の意味でのコロナ対策っていうのは、しっかりと経済対策をやることじゃないかと思えます。ですから診療所は延期していただきたいと思うんですが・・・。その点について町長いかがですか。

○町長（長嶋精一君） 確かにおっしゃるとおり公共工事で、不況を脱してきたというような時代ではないかもしれませんが、しかし、やはり歴然と公共投資というものは、やはり景気浮揚対策になっている訳であります。1番は、個人消費だとは思いますが、そういう中で、診療所をやめて、コロナ対策をやるというようなことをですね、しなくても、コロナ対策は十分にやっていきます。それと、将来に夢とかがあっていう事でも

すね、今現在の飲食、民宿、農泊民宿だとか、そういったものを結びつけてですね、盛んにしていった、必ずすぐにではないにしろ、若い人たちも、そこで働いて、食べていけるというようなものを作り上げていけば、私は、コロナ対策になるなって・・・、それが中長期に、松崎町の経済対策になっていく。そして、診療所があれば、なお自分の生命が守られるということで、安心感を与えるんじゃないかと、このように思っております。

○5番（深澤 守君） 時間がないのでまとめさせていただきます。今回のコロナ対策っていうものに対して、いろいろ質問等しましたけど、僕、1番なのはですね・・・、町長も、皆さんも、議員も、しっかりと一軒一軒回って、町民の皆さんの声を聞いて・・・、僕もやっていますから、そういう話をします。でも、町長、それ、本当なんではなかね。これ、色々な人に聞きますけど、町長言っても何も聞かないよ、言うだけ無駄だよねって聞きます。是非ですね、町長、本当の声聞いてください。町民の皆様は今、コロナの対策で忙しいときに、診療所やる事はないよね、延期して欲しいよね、って声たくさんあります。是非そういう声を聞いてください。それと、もう1点。町長、今、回っていらっしゃいますけど、町長が回ると松崎がどんどん分断しちゃうんです。凄くこのなんかね、町長派と・・・町長と町長の好きな人ではない人と、どんどんどんどん分断していく、これ加速しています。今、町長だの、反町長だの、町長嫌いだ、好きだのって言っている時じゃないんですよ。松崎町が一体となって、このリーマンショック以来、下手するとこれ世界恐慌、以上のひどい状況になる時に、松崎町民、一体となって、ことにあたらなかったら、これ、松崎町あと10年20年したら無くなりますよ。是非ね、トランプさんのようにならないで下さい。松崎を一体となって、本当に、あの時、町長がいたから、一体となった。それで、よくなったというような町政してください。昔の故事に、虎は死して革を残し、人は死して名を残すというという言葉があります。是非、あのときに、町長が長嶋さんであってよかったなっていう、事を言われるような、町政にしてください。それが1番のコロナ対策ではないかと思えます。

以上、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

（○町長（長嶋精一君） 「ありがとうございました。そういうふう  
にいたします。」）

○議長（藤井 要君） 以上で深澤守君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前9時55分）

---